



窮屈な止り木惜春に叶ふ	千田 百里
朧の夜海に太古の響きあり	林 昭太郎
白石加代子なかんづく春の闇	辻 美奈子
一木の影を豊かに営巢期	甲州 千草
あらせいとう海女のほまちの岬畑	大沢美智子
紋白蝶おろしたてなる翅ひろぐ	栗原 公子
いつまでも暮れぬ夕空花ミモザ	菊地 光子
夏立つやコップにもある水平線	荒井千佐代
武蔵野の空は鈍色鳥の恋	宮内とし子
佐保姫の裳裾の揺るるさざ波か	佐久間由子
蛇出でて間合をはかる舌の先	能美昌二郎
拾ふこと出来ぬ言の葉春北風	佐々木よし子
花吹雪てふ優しさの吹き溜まり	平松うさぎ
歳月に沸点のあり桜散る	関根 瑤華
言霊は書かねば消ゆる石鱗玉	大矢 恒彦
おほどかに乳含ませる海女の昼	塙 誠一郎
重力と浮力のあはひ桜散る	仲里 貞義
惜しみなく光返して花ミモザ	本池美佐子
酒ありて鈍行ありて花の旅	森村 江風
潮沫のみづ色をこひ海雲買ふ	栗坪 和子
清明の沖へと魚のひかり飛ぶ	多田ユリ子
花冷や打つて揃へる紙の端	榎本 秀治
朧夜の救急箱に虫めがね	諸岡 和子
田鼠鶉と化す疫の名はコロナ	井原 美鳥
春愁の逆さに返す砂時計	杉原かほる
収骨の箸の角張る桜冷	小倉 征子
上向いて上向いて空つくづくし	石橋みどり
明日ありと思ふ緩びに桜隠し	長山 正子
沈丁の香の中にあて木を知らず	矢野美沙子
若布干す千々に光れる波寄せて	宮下 桂子

沖 の 水 脈

